

Cage

冬の樹

また白い壁に囲まれた部屋にいる。迫り来る夜の影の中に、座り込んでいる。ますます黒さを増す闇が、すべての音を呑みつけて、ただ自分の息をする音だけがヒューヒューと聞こえるばかりだ。

格子の間から手を伸ばして自由な空気に手を触れようと仰いで見る。すると細い月の光りに照らされた1本の木の根元に、何かの欠片が幾つもきらきらと光るのが見えた。まるで、砕け散った人生がそこで、輝いているかのように思えた。あの欠片を拾い集めて、つなぎ合わせるのが出来たのなら、体に染みついた苦い思いを少しは洗い流すことが出来るのかもしれない。そして片意地な闇に身を潜めるような、孤独な性質から抜け出せるかもしれない。不眠と興奮が交互に訪れるだけの部屋から、ドアを開け放して表へ出て行くことが出来るのかもしれない。

いや、もう今やその時が来ているのだ。そう考えると男は突然広い荒野に飛び出したように自由になり、重苦しい心に白い羽が生えたように解き放たれた。・・・その時、後ろから何か強い力でぐいと肩を掴まれ、へなへなど冷たい床に座りこんでしまった。

男は、また闇の中へと、身を沈めた。不思議ともう何の感覚もなく、ただ生温かい涙が目から流れていた。

歎きし 記憶のごとき 冬樹の窟

網走刑務所受刑者の句



COLUMN

鎌倉の猫事情 第五十五話



にぎやかで楽しかったお正月もいつのまにか終わってしまい、鎌倉の一番静かな季節になりました。

山にも海にも人気がありません。紅葉した葉も枯れ落ちて、いかにも寂しい風情です。と、いうのは山や海の表向き姿です。堅い土の下では春が始まっています。蒼く冷たく見える海の中は、地上より一足早く、季節は春です。海の中では新芽はもう大きく成長して、花が咲き、青葉を広げて立派なワカメとして収穫されるのを待っています。山の梅の木も小さな蕾を丸く膨らませて、白や赤の花びらがこぼれ始め、そこかしこに春の足音が聞こえて来ています。

さて、春の心配より、何より心配なのはお隣に居候している我が家の長男クウの事です。先日見かけた、耳からお腹から血だらけになっている様子はどうやら、猫アレルギーのせいです。たかだかアレルギーとは言ってもあの状態では一刻の猶予もないのです。さいわいお隣に電気が灯るのが見えた晩、伺ったところ、運良くご主人は在宅されていたのですが、驚いたのは、長女のすみれまでもが、クウと並んでご主人の横にちょこんと座っていたことです。それでようやくすみれの居所が判明しました。グーニー一家は子供達が小さい時は仲良く幸せな家族でしたが、クウとすみれが大きくなると、グーニーが子ども達を激しく攻撃するようになり、すみれとクウは、いたたまれず家を出たのです。2匹の行方を気に病んでいたところ、ミルクホールのスタッフの目撃情報により、どうやらクウがお隣にお世話になっていることは分かったものの、すみれの行方は杳としてつかめなかったのですが・・・まさか、すみれまでお隣に居座っていたとは・・・

そして今始めてお隣のご主人に、「本当にうちの猫たちがお世話になってしまって、今までご挨拶もせず、本当になんと言って・・・」という具合に恐縮するにいたったのです。ご主人もきまり悪そうに、「かわいくってね」と言われました。そこでご主人もご心配されているであろうクウの治療について話しあいました。ご主人は返って恐縮され、少し前からだんだんひどくなっていたのに、自分が病院に連れていけずこんなに悪化してしまったと、ここしばらくの容態を話してくれました。朝早く出ていつも夜遅くにしか帰宅出来ないという事情だということ。いえいえ、とにかく私がなんとかして獣医に連れて行くつもりですが、クウはもう、私の言うことは聞いてくれないので、どうしたらよいでしょうか、などなど、お互いの考える事情について話し合いました。その間、すみれとクウは代わる代わる私達の顔を見上げています。しばらくしてご主人は、きっぱりと、「わかりました。私の鍵を貴方に預けましょう」と、言いました。「え？ それでは、あまりにも・・・」と迷う私を見て、「それしか方法はないでしょう。しばらく間、鍵を預けます」……

——to be continued

WANTED

アルバイト募集!

ウェイター・ウェイトレス

土日・祝日 働ける大学生・専門学校生

販売・HALL

平日昼間パートタイム 1日3~4時間

お問い合わせは、ミルクホールまで



開店30周年記念 ミルクホールタイムス総集編

1976年 ..あれから30年.. 2006年

1976年から30年

2006年、ミルクホールの開店30周年を記念して
ミルクホールタイムス創刊号から100号までを一冊の本にしました。



鎌倉の猫事情

ミルクホールタイムスにて好評連載中
「鎌倉の猫事情」
第一話より 前編最終話まで掲載

鎌倉の猫事情 第一話より

猫のシュガーちゃんが天国に召されてからもう、一年と一ヶ月が過ぎました。
...中略...シュガーちゃん亡き後、ミルクホールの時間はさほど変わりなく過ぎているように見えます。しかし、この界隈の猫事情はずいぶん変わりました。
...中略...何しろ今の街中ときたら、気持ちよくウンコできる土の地面もままならないのです。猫好きのご老人が一人また一人と姿を消して行き、とともに高齢化した猫たちもさまざまな運命と寿命をまっとうし、寂しい路地になりつつあります。
...フルハウスのお向いの白猫は、お汁の沁みのような薄い茶色のブチが尻尾とお腹のあたりにあり、右目の上には古傷を、連戦の爪跡と思われるカギザキを両耳に持ち、若い頃は実に堂々としたボス猫として界隈の屋根に君臨していたのが、だんだん年をとり、...中略...その一年後には、飼い主宅のガレージで遊びまわる悪ガキたちの片隅に、ぼろ雑巾のような毛並みの変わり果てた姿となって毛繕いをしているのを目撃されています。
違う猫かとも思ったのですが、耳のカギザキと右目上の古傷によって同猫と判別できたのでした。足の力がなくなりとうとう屋根にも上れなくなっていたのでしょう。思えばお向いの白猫の衰退が、このあたりの猫事情を一変させたのです。

ミルクホールタイムス59号掲載



ミルクホールの不思議が全てわかる
B5判-200page ¥1.800

「鎌倉ミルクホールタイムス」

1986年

ミルクホールを開店して10年、未だお客様の少ない寂しい店内を見渡したマスターの、

「お客さんが退屈しないですむように、
ミルクホールのフリーペーパーを、作りなさい！」
という一言で1986年4月、ミルクホールタイムスの創刊号を発行しました。

それから20年

2006年・100号・30周年を記念して一冊の本になりました。

ミルクホール30年の軌跡を御覧下さい。

PHONE 0467-22-1179 e-meil/ info @ milkhall.co.jp

ANTIQUES

ミルクホールのアンティークは
毎日の生活の中で使える
やさしいアンティークです
日常の空間の中で昔の時間と
触れ合ってみてください



伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

新入荷情報

伊万里・古伊万里入荷
西洋アンティーク各種入荷

◆アンティーク

英国19C.ティカップset入荷
リモージュアンティーク
オールドノリタケ等
DSキューピー人形入荷
ポコちゃん人形
大正時代ガラス器
大正時代ランプシェード
レプリカ照明器具各種
昭和ハンドバッグ
戦前着物帯

♣古陶磁

古伊万里青磁そば猪口
古伊万里青磁鉢・皿入荷
伊万里そば猪口・明治鉢
幕末染付7寸皿・大皿
明治染付大徳利
李朝白磁・青磁等

♠和洋家具

明治・大正時代の和洋家具類
アンティークカフェチェア入荷
昭和初期飾り本箱
明治時代帳場筆筒2段式
大正時代 衣装筆筒他



LIVE 2/18 Sat.

pm 7:30

ハーフムーンのライブは
毎月第三土曜日の夜です。 HALF MOONの音楽は
MILK HALLのBAR TIMEを
ライブとお食事でお楽しみください by 琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

<http://www.e-half-moon.com/>

PARTY

ミルクホールで少人数のパーティを
企画してみませんか?
ミルクホールでは、奥のBAR ROOMを
貸切りにした、数人から15人程度の、
パーティを承っております。
お友達同士のランチパーティや、
ティパーティに、ご利用ください。
夜のパーティには、ご希望を伺い、
お好みのお料理とお飲み物をご用意さ
せていただきます。
どうぞ、お気軽にご相談下さい。



Cafe'
Milk Hall

& ANTIQUES phone 0467-22-1179

HISTORY

KAMAKURA・・・場所の記憶 No.2

昔から長い間人が暮らし、生活を営んだ場所には、『場所の記憶』が残るのだ
そうです。ここ鎌倉では毎日どこかしらで、遠い昔に埋もれてしまった場所の記憶
を掘り起こそうと、発掘調査がなされています。

発掘調査ではさまざまなものが掘り出されています。茶碗や櫛、鏡、壺など、
そういったものでその土地にあった家や屋敷がどういふ身分のものだったかなど
推測されるでしょう。一昨年ほど前、浄明寺町あたりに住むミルクホールでアル
バイトする大学生の家が新築のため取り壊された時の事、彼女の話によると
取り壊したあとの敷地から『報国寺の本堂』が出てきたそうで、家族もびっくりして
いたそうです。そのほかには、鳥居跡や、道の跡などが見つけられ、その都度
鎌倉中世の地図が書き換えられたり、書き加えたりされるのです。鎌倉に住む人
にはよく知られていることですが、鎌倉には小町通りが2本あります。1本は、駅か
ら赤い鳥居をくぐって入る鎌倉一賑やかな商店街である小町通りです。ところが
この小町通りの歴史は意外に新しく、そもそもあのシンボルマークの赤い鳥居は
参拝のためのものではなく、戦後、ミルクホールの先代である磯見満氏が商店街
の発展を願って提案し、建造したもののなのです。今では毎日何百何千という人が
鳥居の下をくぐります。お正月には何万人という人が通る道になりました。
あの鳥居には先代の思いが場所の記憶として刻まれた事でしょう。そして
もう一方の小町通りこそ、鎌倉時代に繁栄を誇った道なのです。
若宮大路を挟んで丁度東側にあるのが昔からの小町通りです。
八幡宮の東にあったとされる将軍家の住居、大倉御所から
鎌倉時代貿易で栄えた材木座海岸まで通っています。
この道では当時沢山の人が往来し、生活をし、商売もしま
した。通りの北側にある、現在『辻説法』という地名で親し
まれている所は、日蓮上人が毎日のようにそこに立ち、
道行く人々に説法を説いていたということです。今も
そこに立ってみると、当時の光景が目に浮かぶようです。
道の記憶・・・道にも多くの記憶が刻まれています。

